

FIFA通達とフェアプレー

JFA S級審判インストラクター 梅本博之

今年度の競技規則改正通達の中で、FIFAは特に負傷者に対する対応について、言及している。日本サッカー協会の解説によれば、「競技者が重傷を負うと、フェアプレーの遵守という名目でボールをけりだし、治療後ボールを保持していたチームにボールをけり返すという対応が一般的に行われている。しかし、時にはフェアプレーとかけ離れた、自らのチームにとって有利なプレーの再開となるよう、また時間稼ぎをするように行われることもある。」・・・これは、自然発生的な行為に「こうしなければフェアプレーではない、スポーツマンではない」と押し付けたことから生じた矛盾である。競技規則の精神はいうまでもなく「公平・公正」であることである。つまり「やり得」を許さないことがフェアプレーであり、審判員は負傷者に対しては競技規則通りの対応をすることが要求されていることを自覚しなければならない。

☆ 審判部クイズ ☆

試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定する方法として、ペナルティーマークからのキックを行います。「キックを行う資格のある全ての競技者がペナルティーマークからのキックを終えた後、次のキックのラウンドは最初のもとの順番を変えることが？」

Y:できる N:できない

「サッカー選手と栄養について」

(社)大阪府サッカー協会 スポーツ医学委員会 管理栄養士 吉川珠美

スポーツには様々な競技がありますが、サッカーは瞬発力、スピード、パワー、持久力、集中力などの能力を駆使しなければならないので、高い身体能力が求められます。そして選手自身が持つこれらの力を最大限に発揮するためには、食事によるコンディショニングの重要となります。

例えば当たり負けしない強い身体を作るためには、単に激しいトレーニングをすればよいわけではありません。トレーニングの後の食事でタンパク質(肉、魚、大豆、卵に豊富)やその代謝に必要なマグネシウム(大豆、海藻、青菜に豊富)をしっかりと補わなければ、疲労が残ったり怪我の原因になることもあります。また、後半になってもバテずに走り続けるスタミナや集中力を維持するためには、エネルギー源となるご飯や麺類などのでんぷんをしっかり摂取することが不可欠です。

ところが「これを食べたら勝てる」「これを食べたら丈夫な身体ができる」などという都合のよい食べ物はありませぬし、食べてすぐに結果が出るものでもありません。また、食事の質を高めようとすると時間や手間、お金がかかってしまうので、わかってはいてもなかなか実践できないのが現状ではないでしょうか？しかし、いくら頑張っても練習をしても、いくら才能のある選手でも、正しい食べ方を知らなければその努力は100%発揮できません。さらに育成の選手にとっては、大人の選手よりもむしろ食事の重要性が大きいです。サッカーだけでなく一生の生活習慣の基礎を作る成長期こそ、食事のとり方について学ぶことが大切であり、怪我の予防やその選手の能力を引き伸ばすために不可欠なのです。

そのためには、単にバランスのよい食事を与えるのではなく、自分で考えて食べる力を養うことが重要です。普段の生活では家からおにぎりや果物を持参して食事で練習や試合の前に食べてしっかりエネルギーを補給したり、夕食では肉だけでなく魚、大豆製品などのタンパク質をしっかりと食べて体作りの材料を摂取するといったちょっとした心がけを習慣化することが、その選手の身体と心の土台を作るのではないのでしょうか。



《お問合せ先》社団法人 大阪府サッカー協会 | 《公式ホームページ》 <http://www.osaka-fa.jp/>
〒532-0002 大阪市北区曽根崎新地2-1-13 沢田ビル3F | 《E-MAIL》 ofa-info@osaka-fa.jp
TEL: 06-6342-5288 FAX: 06-6342-5388

大阪サッカー通信

(社)大阪府サッカー協会

Vol.2
2008.12

ごあいさつ

副会長 山野 喜弘

本協会、広報誌第2号を発刊するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本協会は、平成17年12月に設立総会を行い、4度目の新年を迎えようとしています。以前の協会は、任意団体であったが、社会的、財務的、組織的に弱点をかかえて運営を行ってまいりましたが、新組織を設立後は、各連盟、委員会の理事、役員の方のご協力、ご努力により、組織一体となった取り組みが出来るようになりました。明確な会計、わかりやすい組織、垣根を越えた各種の取り組みに挑戦出来る協会となりつつあります。

しかしながら、平成20年12月1日より施行された法律により、新たな協会組織として5年以内に改変に取り組みなければならない必要性に迫られております。協会は、堺市が建設されております、(仮称)堺サッカー・ナショナルトレーニングセンターを多くに活用、運用し、本協会のさらなる発展普及に努めていかなければならない時を迎えております。今後とも、協会役員一同、最善の努力をいたす所存であります。皆様方のあたたかいご支援、ご援助を賜りますようお願いいたします。

最後に、今年2月本協会の顧問で、協会発展に大変ご努力、ご協力いただきました、白田彬作氏の悲しみを報告しなければならないのが残念でなりません。慎んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。



大阪にサッカー文化を創出しよう!

専務理事 藤縄 信夫

社団法人となって4年の月日が経過しようとしている今日、現実を眼向ければまだまだ任意団体の域を脱しきれていないと思うところが随所に感じられます。2010年に完成する(仮称)堺サッカー・ナショナルトレーニングセンターは、新たな大阪のサッカー文化を生み出せる起爆剤にしていく必要があります。サッカー場が14面あるというハード面の完成と共に、ソフト面での整備の重要性が肝要であります。具体的にはサッカーファミリーの裾野の拡大と、サッカーを通じての友好拡大(近隣の友好・国際化)や地域スポーツのリーダーとしての責任の重要性を痛感し、また地域に根ざした活動が必要であり「こころのプロジェクト」等が子どもたちの心身の健全な発達に積極的に関与していくことになると思います。

一方、生涯スポーツとして幅広くカテゴリーを越えて楽しめる環境づくりにも必要であります。もう一度JFAの理念「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。」を原点に大阪におけるサッカー文化を創出していくために各種別・委員会が協力しあって頑張ります。



2002 FIFAワールドカップ記念事業 大阪サッカーフェスティバル2008を終えて

(社)大阪府サッカー協会 常務理事 樋川 利雄

2002 FIFAワールドカップ記念事業は2002 FIFAワールドカップ開催都市におけるサッカーの普及・発展のため、(財)日本サッカー協会から支援・援助を頂き、各都市・協会が独自性を発揮し、多くの事業を展開するものである。

大阪では、2005年、「第19回大阪国際招待コース(U-18)サッカー大会」を、2006年にはアジアンサッカーフェスティバルとして、アジアンサッカーカンファレンスを大阪市長居スタジアムを中心に開催した。今年はこの最後の事業とし、「大阪国際サッカーフェスティバル2008」を、7月11日・12日・13日の3日間、中国上海女子U-18、韓国女子U-18、日本代表女子U-17と大阪女子U-18が参加し、第4回日・中・韓国国際女子サッカー(U-18)大会やU-12の女子強化と育成のため兵庫選抜女子U-12、三重選抜女子U-12を招待し、第1回女子ユースシャイニングサッカー大会から始まった。

その後、8月8日・9日・10日には(社)大阪府サッカー協会の独自事業として一番歴史のある大会で、今回はブラジルのバルメイラスU-16、スペインのバレンシアU-16を招聘し、セレッソ大阪U-18、大阪府選抜U-16と戦う「第22回大阪国際招待コース(U-16)サッカー大会」や8月8日に韓国脳性麻痺コムトリ愛の会を招き日本脳性麻痺7人制代表とで7人制脳性麻痺サッカー大会、また8月9日・10日にU-6・U-8を対象とした8人制キッズサッカーフェスティバル、8月9日・10日に大阪社会人・大阪国体選抜の強化にむけ韓国国民生活全国サッカー連合会優勝チームを招聘し日韓交歓試合、8月10日に大阪女子フットサルの強化のために三重女子選抜・高知女子選抜を招待してフットサル大会、そして8月9日・10日にU-14の強化のために和歌山選抜U-14・奈良選抜U-14を招待しU-14サッカー大会など開催した。いずれも会場は大阪市長居スタジアムを中心とし長居第2競技場、長居球技場の3会場と長居球技場南練習場等を使用した。本協会としてこの事業の趣旨にのっとり、今回の大会を通じて国際交流はもとよりサッカーファミリーを増やし、普及・強化により一層つながることができ、大会そのものも成功裏に終えることができたと思っております。今後、これを機会にますますサッカーが大阪で発展し、独自のサッカー文化を創出してほしいものだ。

2008活動報告

11月1日現在

種別	大会名	優勝チーム	全国大会出場チーム
シニア	第11回大阪シニアサッカー大会 (M-50)	ニコルスFC (M-50)	ニコルスFC
	第10回大阪スポーツマスターズ (M-40)	ニコルスFC (M-40)	
1種	第15回全国クラブチームサッカー選手権大阪大会	貝塚フットボールクラブ	
2種	大阪高校春季サッカー大会 (全国高校総合体育大会予選)	近畿大学附属	近畿大学附属、大阪府協(ベスト8)
	プリンスリーグU-18関西 (高円宮杯全日本ユース予選)	セレッソ大阪U-18	セレッソ大阪U-18
3種	大阪中学校サッカー選手権大会 (近畿・全国中学校サッカー選手権大会予選)	白鷺中学校・杉中学校	白鷺中学校
	大阪知事杯 (高円宮杯全日本ユースU-15大阪府予選)	岩田FC	ガンバ大阪Jユース
4種	全日本少年サッカー選手権大会大阪大会	セレッソ大阪U-12	セレッソ大阪U-12
	第42回日本クラブユースサッカー選手権 (U-18) 関西地区予選	ガンバ大阪ユース	ガンバ大阪ユース、セレッソ大阪U-18
クラブユース選出	第5回関西クラブユース地域リーグ大会	枚方フジタ (2位)	
	日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大阪予選	ガンバ大阪Jユース	ガンバ大阪Jユース(準優勝)、セレッソ大阪U-15、岩田FC
女子	大阪府クラブユースサッカーリーグ (U-15)	ガンノ門興 (1部)	
	全日本高等学校女子サッカー選手権予選	大高学園	大高学園
	大阪高校春季サッカー大会	大阪府協	
	第14回大阪女子愛国杯 (第30回全日本女子サッカー選手権予選)	大阪府育大	
	第12回全日本女子ユース (U-18) 選手権予選	大阪府協	
フットサル	第13回全日本女子ユース (U-15) 選手権予選	F.C.ブトリア	F.C.ブトリア
	JFA大阪ガールズ/エイト (U-12) サッカー大会	青根ヒューズ	
フットサル	第5回全日本女子フットサル選手権大阪大会	MKG'S FUTSAL CLUB LADIES	MKG'S FUTSAL CLUB LADIES
	第14回全日本ユース (U-15) フットサル 大阪大会	DREAM FC	
	大阪府ユース (U-15) フットサル大会 2008	F.C.岸和田	



大阪サッカーフェスティバル2008
入場前のバルメイレスターズ

種別登録数

種別	2008年10月末日現在	
	団体数	登録人数
1種 (個人、男子)	241	6,165人
2種 (U-18)	241	5,585人
3種 (U-15)	180	7,164人
4種 (U-12)	294	10,198人
シニア	7	206人
女子	36	735人
フットサル	53	1,986人
個人会員	238人	

決算・予算の概要

科目	単位 円			
	平成19年度 一般会計決算	平成20年度 一般会計予算	平成19年度 万種別特別会計決算	平成20年度 万種別特別会計予算
1 収入の部				
(1) 事業活動収入	303,171,373	272,000,000	30,564,209	14,300,000
1-1 基本財産収入	130,611	1,000	0	0
2 会費収入	6,400,000	6,750,000	0	0
3 登録費収入	139,093,230	124,465,900	0	0
4 事業収入	106,455,943	96,773,000	16,551,759	11,200,000
(1) 事業活動参加収入	23,557,000	25,400,000	0	0
(2) 企業協賛金収入	7,736,850	9,300,000	0	0
(3) その他収入	8,689,425	6,729,000	0	0
(4) 施設・普及事業収入	20,277,170	21,365,000	0	0
(5) 審判事業収入	8,759,550	8,600,000	0	0
(6) 競技指導収入	39,132,420	25,300,000	0	0
(7) 使用料収入	0	0	16,551,759	11,200,000
5 補助金・交付金収入	41,630,920	39,200,000	0	0
6 雑収入	2,994,052	1,900,000	0	0
7 広帯収入	0	1,000,000	3,000,000	3,000,000
8 寄付金収入	1,632,710	70,000	0	10,000
9 雑収入	3,766,007	2,200,500	12,611	90,000
(10) 雑収入	0	0	0	0
(11) 雑収入	0	0	0	0
前期収入合計 (A)	303,171,373	272,000,000	30,564,209	14,300,000
前期繰越金	75,072,164	17,000,000	0	0
収入合計 (B)	378,243,537	289,000,000	30,564,209	14,300,000
支出の部				
(1) 事業活動支出	333,095,495	338,000,000	14,402,416	14,100,000
1-1 登録費支出	70,801,500	65,200,500	0	0
2 施設維持費	5,160,000	5,375,000	0	0
3 会費・登録費	256,320	14,200,000	0	0
4 事業支出	150,439,670	135,937,000	12,294,690	12,000,000
(1) 競技指導事業支出	58,821,900	52,100,000	0	0
(2) 審判事業支出	24,959,750	15,100,000	0	0
(3) 指導・普及事業支出	35,945,900	34,300,000	0	0
(4) 施設・普及事業支出	29,639,920	17,500,000	0	0
(5) 審判事業支出	11,324,780	12,645,000	0	0
(6) 競技指導事業支出	1,247,400	3,150,000	0	0
(7) 万種別特別事業支出	0	0	12,294,690	12,000,000
5 管理費	66,430,130	64,015,420	2,197,616	4,100,000
6 退職給付金	0	200,000	0	0
7 事業積立金	40,112,737	114,500	0	0
8 雑費	0	2,075,500	0	0
(9) 施設維持費支出	0	0	0	0
(10) 雑費支出	0	1,000,000	0	200,000
(11) 予備費	0	0	0	0
前期支出合計 (C)	333,095,495	338,000,000	14,402,416	14,300,000
繰越金 (A) - (C)	-29,924,122	-17,000,000	6,061,793	0
繰越金 (B) - (C)	45,150,042	0	6,061,793	0

国体サッカー少年の部 10年ぶりの準優勝!!

第63回国民体育大会(チャレンジ! おおい国体)結果報告



9月27日(土)より開催の第63回国民体育大会大阪府大会におきまして、大阪府選抜少年チームは28日(日)の1回戦で新潟県選抜を2対1、29日(月)の2回戦で雨の中、地元大阪府選抜を5対1で下し、30日(火)の準々決勝は前日から続いた雨の中で埼玉県選抜を1対0、10月1日(水)の準決勝では同じ近畿ブロック代表の兵庫県選抜を1対0で破り決勝に進みました。

決勝戦は10月2日(木)に九州石油ドームで行われ、先制を許した神奈川県選抜を相手に猛攻を仕掛けましたが得点できず0対1で破れ、第2位で大会を終えました。選手たちは休息日のない5日間のハードな日程にも関わらず「日本一」

を目指して積極的に取り組み、試合を重ねるごとに成長する姿が見られ、時間の経過とともにチームとしてのまとまりがはつきりと感じられるようになりました。「優勝」するという目標に向かって常にプラス志向で、どんな状況でも諦めることなく一丸となって前進し、このような好結果を得られましたことは選手やスタッフの努力はもとより、関係各位の皆様のご多大なるご理解とお力添えの賜物と感謝し、報告させていただきます。

(社)大阪府サッカー協会 技術委員会 川上幸三

大阪女子普及活動 ～大阪女子サッカークリニックの意義と可能性～

今年の北京オリンピック、「なでしこジャパン」の大活躍で女子サッカーに新たな旋風が吹き始めています。そこで、今年度、大阪女子国体選抜チーム監督の西井綾さんに大阪の女子普及についてお聞きしました。

2004年2月、大阪で指導者資格を取った女性公認指導者8名が集まり、話し合いがもたれました。日本の女子サッカーが始まって30年以上経った現在もまだ、女子にとってサッカーをする場が少ないという現実を目の当たりにし、何か出来ることはないか...さまざまな議論の結果「女の子が気軽にサッカーできる場所を作ろう」ということになりました。

『第1回大阪女子サッカークリニック』と題して2004年3月に、女の子なら誰でも参加できるサッカースクールを企画。その目的を

1. 年代を超え、主として初心者を対象としたサッカー教室を開催し、サッカーが出来る(楽しめる)環境を作る。
2. 資格を持つ女子指導者や、女子チームの指導者の活動機会と指導技術の向上を図る。
3. 競技人口の増加とチーム増加につなげる。

という3点に絞り、実施しました。第1回が盛況に終わり、毎月大阪各地で行う事ができればと考えていた矢先に、JFAのキャプテンズミッションM6にOFAの活動企画として提出し、2004年度から2006年度までトライアルPAとして支援を受けることができました。2007年度からは、月ごとに「セレッソ大阪」や「スベランツァFC高槻」との共催で、グラウンドやスタッフ協力を受けて現在に至ります。

活動5年目を迎え、毎月50名から100名超の女の子たちが集まってくれるようになりました。当初は初心者対象でしたが、普段は4種でプレーしている子も、「女の子ばかりでサッカーできて楽しい!」と言って、毎月のように参加してくれます。本当は女の子同士でサッカーしたいという欲求があるけれども、その欲求を満たす場所がまだ少ないことが浮き彫りになってきました。女子がサッカーをする事への抵抗感はまだあると感じています。男女の精神的成熟速度の違いから、「女の子の指導は難しい」といった意見もよく耳にしますが、今後はさまざまなカテゴリーの指導者と協力し、女子がサッカーをする事への抵抗感を無くしていくことで、女子サッカーの環境も良くなっていくのではないかと考えています。

『大阪では女の子もいつでもどこでもサッカーできる。』そんな環境づくりを目指し、今後も活動を続けていきたいと思ひます。

第32回 総理大臣杯 全日本サッカー選手権 優勝!!

大阪体育大学サッカー部 部長・総監督 坂本康博

本年は2部リーグながら、1部昇格は勿論のこと、全国制覇を目標に掲げスタートした。リーグ戦の戦いを重ねての予選を勝ち抜き、関西選手権で準優勝。実に8試合を戦っての本大会への出場権であった。

本大会は、この4年間「競り勝つ」をテーマに取り組んだ特別トレーニング(N-S式トレーニング-詳細は別の機会に)の成果を証明すべく、また大学選手権出場を賭けて(優勝チームに権利と義務あり・実は大会直前に変更を知らされ、本年度より天皇杯への出場権となつた)3回戦まで進出・J2サンフレッチェ広島に敗れる)選手スタッフ共に、何が何でも優勝するという強い決意で臨んだ。



新潟経営大に4:2、最大の山場であった国体大戦に延長で競り勝ち、高知大にはPK戦でもつれ込んだが勝利し、決勝は関西選手権決勝で敗れた阪南大と対戦した。前半の2点を守り抜き、22年振りに2度目の優勝を達成することができた。奇しくも22年前に誕生した4年生を中心としたメンバーは、私が現場の指揮に4年振りに復帰し、チーム再建を賭け、取って1年次よりレギュラーとして起用してきた大多数の選手たちである。

本年2部リーグは残り4試合。あと勝点1で、1部復帰が決定する。多くの皆様の応援に頼るためにも、常に全国で勝負する大阪体育大学サッカー部でありたい。

写真提供:OJMSホームページ